



# 共同通信



2010年2月25日 162(372号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp  
http://koudou.jp/ 振替01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 齒ざしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

## To tell the story 62 『12月に引っ越しました』

昨年12月に名古屋に引越して、早(まだ)2ヶ月。『共同幼稚園』にお世話になったのは、娘がぽっぽで9ヶ月という期間ではありましたが、実に有意義な時間を過ごさせていただきました。ただただ、「感謝」の一言です。

名古屋に越してきたというものの、今のところ、名古屋までの「トンネル」入り口(気持ちの中では、名古屋にたどり着いていない)といったところです。名古屋(居住エリア近隣)は、生活エリアが広く、右と左で事足りた西宮とは環境が違い、自転車で移動すれば、どこも1日かかり、車使用も余儀なくされる毎日です。おまけにやたらと坂が多く、重い子ど

もを後ろに乗せて自転車となると、重労働です。実に、西宮は便利でした。

幼稚園は事前に調べていたところは、『期待はずれ』で、慌てて公立の幼稚園に問い合わせをして、申し込んでしまいました。近隣の人に聞くと、意外や、名古屋は「保育園」の選択肢もあるとのこと。確かに条件等があるようでしたが、所変われば~で、じっくり腰を据えて考えてもよさそうでした。これだけインターネットが広く浸透しているとは言え、肝心なことは、意外とわからないものです。『共同幼稚園』で「人とのコミュニケーション」を大切にしてきたのに、初めての土地で、少々早計で

した。・・・とはいえ、幼稚園の選択は、今でも‘難しい’と感じます。

私が『共同幼稚園』を知ったのは、友人に誘われた「このゆびとまれ」でした。第一印象は教室が「WOODY」で、「わらべ歌でお遊び会をしている。」ということと、「順子先生の歌に、みんなが集中している。」ということでした。他にも幼稚園まわりはしていましたが、どこもコンクリートの壁で、特に心に残るものはありませんでした。そんな中で、『共同幼稚園』に入園を決めた最大のきっかけは、知人の「年長になったら冬の箱館山にいけるよ」でした。雪の季節が好きな私はすっかり「親も同行できるもの。」と思い込み、『そんな楽しいことができるところは他に聞いたことがないので、ここしかない！！』と早合点し、娘との楽しい幼稚園生活を思い描いていましたが、あえなく、その夢は断たれました。(入園後、箱館山へは、こどもたちだけで行くという事実を知りました。)しかし、いかんせん、転んでもただでは起きません！！その分私が存分に楽しませていただくことにしました。送迎時のおしゃべりもそうですが、「園芸サークル」での畑仕事に「母くま」のおやつ作り、「共同文庫」でいろいろな絵本に出会い、「ゆっくりと聖書を読んでみませんか」で少しだけ？思索？にふけり、順子先生の「絵本はともだち」では絵本の楽しみ方を手

ほどきいただき、その他、園行事に至っては、枚挙にいとまがありません。極めつけは、お弁当の日にママ友達と出かけて行った六甲です。時間の制約があったので、いつも芦屋のロックガーデンしか行けませんでした。長らく運動から遠ざかっていた体には、とても新鮮で、いい汗をかきました。風吹岩は言っても、標高400m ちょっとですが、標高100m 毎に気温は0.6 下がります。暑い夏でも、吹く風は下界とは全く違うものでした。3000m にはほど遠いけど、爽やかな風が吹いていましたし、秋には、柿やドングリをゲットしたり、紅葉も楽しみました。心残りは、キャスルウォールで昼寝ができなかったことかな・・・いずれをとっても、楽しい思い出です。思い出の中には、たくさんの友人がいます。ありがたいことです。

ここ名古屋で同じようは経験ができるとは思っていません。いろんな意味で環境も違うでしょうし、近くに六甲山のような山もありませんから(笑)。しかしながら、ねっこを据えるべく=居所を確保すべく、娘とともに行動しなければなりません。娘の口癖は、「さくらが咲くころに、新しい幼稚園に行くんだ。」ということです。こどもながらに、いろいろ考えることもあるでしょうし、それを十分に汲んであげられないのが現実ですが、一歩ずつ前に進もうと思っ

ています。

最後になりましたが、凧上げ、お餅つきに参加させていただき、ありがとうございました。これからも、機会があれば、馳せ参じますので、一報お願いいたします。

余談ですが、名古屋事情に疎い私のために、何かご存じのことがあれば、教えてください。近くのお出かけスポット、グルメ情報などあれば幸いです。(何故か、名古屋は尾張徳川のせいか??洋菓子部門がどうも弱いように思います。調べてもなかなかこれといったお店がないんです。それと、やたらとハンバーグが多いです。名古屋は美味しいものが多いと聞いていただけに、少々ショックです。)・・・

・ (岡田 弘美)

コによる福音書1章1節「神の子イエス・キリストの福音のはじめ」の福音のギリシャ語“エヴァンゲリオン”が、エヴァンゲリオンになっています。福音は「・・・すべての場合、イエス・キリストにおいて実現された神の救いに関して、用いられている」(旧新約聖書神学辞典)と、一言でくくられた

りもしますが、幅広く、そして深い意味で使われます。たとえば「自分の命を救おうと思うものは、それを失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう」の場合の“福音”について(マルコによる福音書8章35節)。ここで、福音のためにはそのままわたしのためという意味、及び内容で使われています。マルコ福音書の福音は、「かつて生きていたあのイエスという人物の存在をまるごと」「かつて生きていたあのイエスのこと」になります(「新約聖書/訳と註」田川建三)。“その場合”のかつて生きていたあのイエスは、「・・・人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、また殺され、そして三日の後によみがえるべきことを、彼らに教えはじめ、しかもあからさまに、この事を話された」イエスであったり、「だれでもわたしについて

夏の沖縄のキャンプの時、S君にコミックの“エヴァンゲリオン”を読んでもみたらと勧められて読むことになりました。「西暦2000年、南極に大質量隕石が落下。かくして有史以来未曾有のカタストロフィー『セカンド・インパクト』は起こった。水位の上昇、天変地異、経済の崩壊、民族紛争、内戦・・・世界人口は半分に激減。

それから15年、ようやく復興の兆しが見え始めた頃、人類に新たなる危機が訪れた。『使徒』である。次々に襲来する正体不明の巨大戦闘兵器群。はたして彼らは、その冠する名のごとき、『神々の使い』なのか・・・。予測されていた『使徒』の襲来に対抗するべく、人類は汎用人型決戦兵器『エヴァンゲリオン』を開発・・・」という設定の、その“エヴァ”とパイロットの少年、少女の物語が、コミック「新世紀エヴァンゲリオン」です。で、

4 エヴァンゲリオンは、たとえばマル

きたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と、容赦なくそれを求めるイエスだったりします。それが、マルコによる福音書の“福音”だとすれば、平べったく“イエス・キリストにおいて実現した神の救い”という意味にはなりにくいように思えます。「自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と言う場合も、“かつて生きていたあのイエスという人物の存在をまるごと”のことであれば、そこでは抜き差しならない何かがある事になります。たとえば、ルカによる福音書では同じように、“十字架を負う”ことを取り上げながら、「・・・日々自分の十字架を負うて」となっています。自分の十字架を負うてに、“日々”が付け加わる時、そこからは“かつて生きていたあのイエスという人物の存在のまるごと”は、ほぼ欠落してしまいます。この時の福音の“イエス・キリストにおいて実現した神の救い”は日々、そして未永く、安心して付き合う生き方の模範のようなものかもしれません。その模範によって、少なからずえぐられることはあるかもしれませんが、おおむね安心して付き合える生き方の模範なのです。

しかし、“かつて生きていたあのイエスという人物の存在をまるごと”が福音である時、それは単に“模範”であることだけではなく、少なから

ず骨身を削ることを求めます。のんびり“日々”十字架を負うてということではおさまらないのが、マルコによる福音書の“福音”です。そうして向かい合っている福音の、命ということで“ブレル”ということがありません。今日を、懸命に生きている時の人の姿が垣間見られるという具合にです。抱え込んでしまった病気や障害の事になると、そのことで人生のすべてを左右されてしまう、ということもあり得ます。たとえばマルコによる福音書のイエスにとって命は、もし病気や障害があったとしても、それもすべて“生命そのもの”として受け止めます。それは、イエスの福音が“かつて生きていたあのイエスという人物の存在をまるごと”と、ほぼ同じような意味になります。

“累計発行部数、2000万部突破”という「新世紀エヴァンゲリオン」は、“エヴァ”のパイロットたちの“存在をまるごと”描いているという意味で、平べったい“福音”理解である事をまぬがれています。

(菅澤 邦明)

## ～今月のいのり～

「あたたかい日さむい日」の歌を歌っている子どもたち。風の中に少しずつ春の匂いが漂ってくるのを体いっぱいを感じています。

寒い寒い冬、暖かい日差しをずっと待ちわびていました。

いつまでも明けないのではないかとも思わされた夜でした。しかし神さま、寒くても暗くても、いつもあなたが灯して下さった火が内にあったことに、今気付かされています。

空から降り注ぐ日の光に懐かしさを覚えたからです。

神さま、今日という一日を生きることが出来ますことを感謝いたします。

どんな一日であっても、希望を持って明日を迎える事が出来ますように。

(大平 有紀)

## “ てんやのおもち～オモヤノモチツキ ”

立春を過ぎてもまだまだ寒い日が続きますが、梅の花を見つけたり、暖かい日差しを感じたり、少しずつ春の訪れも感じています。

この時期、毎年楽しんできた「ふゆめがっしょうだん」(かがくのとも)を今年の子どもたちともたくさん楽しんでいきます。ぽっぽぐみの子どもたちは、高木公園で、市民グラウンドで、そして幼稚園で～と、冬芽(ふ

ゆめ)探しに夢中になっています。サルの顔のような冬芽も見つけました。ただただ風景として通り過ぎることもできますが、アンテナを張って発見を楽しみ、その発見をみんなで共有する。そんな風にして日々の散歩も楽しんでいきます。

1月30日(土)は、幼稚園のみんなでアミティーホールで行われた「おおいこいのち」のコンサートに出

かけました。太鼓の音が響くたびに舞台に釘付けになっていた子どもたち。太鼓の音から伝わるメッセージを、きっと私たち大人以上にまっすぐに心で身体で感じてくれたことと思います。大迫力の太鼓の音。毎日と一緒に過ごしている子どもたちと共に感じる事ができたことを心から感謝しています。

2月6日(土)は幼稚園でもちつき大会が行われました。前日、そして当日の朝早くから役員のお母さん方が準備をしてくださいました。ねんにいちどのもちつきは～ てんやのおもち～ オモヤノモチツキ～ など、おもちが出てくるわらべうたを楽しみながら、この日を心待ちにしていた子どもたちです。みんなの目の前で85kgのもち米がどンドンおもちになっていきます。つきあがったおもちは、小さく丸められます。きなこ、よもぎ、あんこ、ゴマだれに大根おろし。黒豆入りやえび入りのおもちも登場しました。次々やってくるおもちを次々に口へと運んでいく子どもたちの表情は本当に幸せそうです。年長の子どもたちからは「50こもたべた!!」なんて声も聞こえてきました。日本の伝統の行事であるもちつき。大人たちが懸命に働く姿を子どもたちはしっかりと見ています。見ている子どもたちにとっても、近頃なかなかできない経験をしている私たち大人にとって

も、とても貴重な一日です。毎年のもちつきの時間をこれからも大切にしていきたいと思います。お手伝いをしてくださったたくさんの方々、足を運んでくださった方々、本当にありがとうございました。毎日の幼稚園での生活に心を寄せてくださる多くの方々には心より感謝いたします。

(山崎 由貴)

## すずや便り

私にとっての冬の重大事である味噌の仕込みとバラの植替え、やらなくちゃ～と気になりながらも日は過ぎていき、とうとう「一日でやるしかない」と決心しました。直前におやつ作りも加わり段取りをあれこれ考えながら迎えた1月の日曜日。

その日の朝、朝食時に読む新聞はやめておき、8:00長女を部活に送りだして活動開始！夕べから水に浸しておいた大豆を煮ながらカスタードクリームを作ります。シューは焼き立てが良いのですが、クリームは冷たくないと思われたいです。10:30大豆もおいしく煮あがりクリームも冷蔵庫へ。流し台周辺もひとまず片付いたところでベランダに出ます。本日の目標、植替え3鉢&肥料入れ2鉢、その他諸々。この日のために剪定鋏(奮発しました)、バラ用手袋(棘が刺さらない)、馬の堆肥、オベリスクを用意してあります。「オベリスク買っちゃった～」と自慢したら「支柱でしょ」とあっさり長男に返されてしまいました。まあその通りですが、昨春ベランダの柵に這わせて部屋から花が見られないという痛恨のミスをしてからずっと探し続けて見つけたものです。まずは大きい鉢に肥料を入れ込みオベリスクにあったサイズに剪定します。次に小さい鉢の植替え。切った枝は空いているプ

ランターにどんどん挿し木をします。去年は全滅だったので、一本でも根付くといいなあ。

その他の鉢も土が固くなっているのでほぐしてふわふわの状態を作ります。直射日光を浴びながらの作業で暑くて汗も出てくるほどですが、かまわず続けて12時過ぎに一旦終了。あまりの暑さにTシャツに着替えて洗顔、さっぱりしてから水をやってついでに打ち水までして作業完了です。いいタイミングで家族3人が戻ってきたので大阪国際女子マラソンを見ながらお昼を食べました。なんと、大阪は雨ではないですか！しかも寒そう～こっちは半袖なのにウソみたいですよ。

・昼食後はシュー生地を作ります。2時に来る長女の友人のおもてなし用なので時間を気にしつつ、お化粧品もしくちゃ、と(少しは)きれいになったところに友人到着(ｷﾞﾘｷﾞﾘセｰﾌ)。本日は弟もO.K.なので、子供3人は別室へ。15:00おやつタイムにシュークリーム完成、親もしばし休憩～午後メインへ突入です。朝の大豆と塩、糀を混ぜ合わせます。去年は取寄せだったので大量の小袋でしたが、今年は友人が買ってきてくれたので大袋にどっさり入っていて感動モノです。来年はわたしもお店に行ってみようかな。人生ゲームで盛り上がっ



ている子どもたちは出てこないで、今年の味噌は最後まで夫婦二人の作業でした。17:30 後片付けも終わりちょっとだけ新聞タイム、その後の夕食のビールの美味しかったこと！あ～近年まれにみる達成感のある一日でした。ベランダがすっきりすると春も近くなった気がします。

( 富家 香麻里 )

## みかん便り

・2月になりましたね。まだまだ寒さが続いています。2月で無事20歳になりました。10代はいっぱい人に迷惑かけてしまったので、ちょっとだけ気をつけようと思います。

1月はテストとレポートとバイトでやばいくらい追い込まれてました。あそこまで重なったのも初めてです。テストが全部終わって自分へのご褒美に、バイクで香川に一人旅行してきました。金比羅さんや琴弾公園の寛永通宝、讃岐うどん巡り、栗林公園観光など、一通り観光をしてきました。金比羅さんではおばあちゃんグループと仲良くなってグダグダ話しながら頂上までグループ行動です。途中のお茶屋さんでおばあさんに金比羅山のことをいろいろ聞かせてもらいました。奥社まで階段を上ったら1400段近くになるということや、金比羅さんは海の神様を祀ってるらしく、船長さんや海上自衛隊などは

交通安全の神様としてお世話になってるらしいということ。交通の神様らしいので、ちゃんと拜んでいきました。おばあちゃんたちに年齢を聞いてみたら、87歳でした！金比羅さんは元気の素で、神様が階段を上らせることで人々を健康にさせてるってしていました。んでまあ、上り終わったら足がパンパンでおばあさんたちに笑われました。くやしいです。宿に向かいしなに、事故を起こしました。スリップして転倒して、あと15cm落下点がずれていたら即死でした。危ない危ない。。日頃の行いがよかったんで、バンソウコウ3枚で傷は防げましたよ。金比羅さんはやっぱり海の上での交通の神様なんですね。効かなかったです(笑)20歳になってすぐに死ぬとか絶対嫌ですし！生きててよかったー。

つい最近友達が事故で入院したんで、ホンマに怖かったです。以後気を9

つけます。

• ほかにも喫茶店でスキンヘッドの大工の棟梁と知り合ったり、うどん屋の親父さんに美味しいうどんのゆで方を教えてもらったり、栗林公園では美味しい抹茶をサービスでいただいたり、今回はたくさんの出会いがあった旅でした。

• 1つ1つ小さなことでも、1度出会ったらその土地の思い出が生まれますよね。高校時代、踊りで日本全国回っていたおかげで、今は県名を聞くとそれぞれの思い出がよみがえります。思い出がたくさんあると会話に困らないから良いですね。今回の香川旅行もいい思い出になりました。

春休みはあと1ヵ月半あります。2月後半、3月いっぱい、どんなことが起こるか楽しみです。

(河村 高志)

# 大切な贈り物・津門川 8 9

## 教会学校から

### 《1月の活動報告》

1月10日(日)  
新年カルタ大会

1月16日(土)  
兵庫県南部大地震子ども追悼コンサート

1月17日(日)  
幼稚園・教会学校の礼拝は「西宮公会教会兵庫県南部大地震犠牲者追悼記念礼拝」と合同でした。

1月24日(日)  
たいこのワークショップ

1月30日(土)  
「おおだいこ いのち」コンサート

1月31日(日)  
けん玉、こま、竹馬、冬の遊びを遊ぶ

### 《2月の活動予定》

2月6日(土)  
幼稚園もちつきと一緒に参加する！

2月7日(日)  
お雑煮を食べよう

2月14日(日)  
幼稚園のゲームで遊ぶ

2月21日(日)  
幼稚園と合同・つみきで遊ぶ

2月28日(日)  
ふるしき大会

2010年2月 あんなこと こんなこと...

## まいのなんでも案内

2月にはいって寒い日が続きますね。イギリス紳士を気取って寒い小雨の中を傘無しで歩いていたら今シーズン三度目の風邪をひきまして、またもや締切をぶっ飛ばしてしまいました。今年度は風邪ばかりひいているので、来年度はもうちょっと丈夫になりたいですね。でも思い返せば4年前、大学1年生のときもよく体調を崩していた記憶がありますので、身体が環境の変化についていけない、ということなんでしょうね。さて、そんな冬ですが、読書の時間はいつになく取れています。で、今日は本当は最近のヒットの児童書『ミムス』について語りたのですが、先月に予告してしまいましたからね。『獣の奏者』語りの後編ということで。や、でも『ミムス』、そこまで好きという話ではないのですが、主人公の境遇がどん底（こないだ「どん底」という言葉が出てこなくて、ずっと「ずんどこ」と間違えたまま会話しておりました。工作中に。なんてお恥ずかしい。）まで落ちるのが、我が最愛のサトクリフ作品を思わせたり、勸善懲悪の物語ではなかったり、言葉遊びが肝になっていたり、と、なかなかツボをついてくる話だったのですよ。分厚いけど、気合いを入れてガツンと物語を読みたい、という方にはオススメ。まあそういう意味では『獣の

奏者』もそうなんですけどね、やっぱりラストがこう・・・ねえ。と、いうわけでネタばれしまくりの感想編へGO！

いや、何といってもやっぱりね、そう終わるかっていう話なんです。そりゃ流れを考えて、あそこまで本気で戦闘モードになった王獣も闘蛇も、何もなかったのごとくにおさまって平和が戻って、皆めでたしめでたし、てわけにはいかないのは分かるんですよ。そうでないと本気さも嘘っぽくもなるでしょうし。だから、あの終わり方はスッキリはするんです。決断までの逡巡も相当描かれているし、決断の決め手も次代に命をつなげるため、というのも明確です。だから良い悪いではなく、もう好みの問題なのですが、私は同じ上橋さんの「守り人シリーズ」の終わりの方が好きです。「守り人」だって、バルサだってトロガイだって命を投げ打って世界を救って終わる、というラストもありえたと思うのです。トロガイは途中まで荻原規子『空色勾玉』の岩姫様を思わせられました。だから生きて最期を迎えて、本当に嬉しかった。甘っちょろくても奇麗事でも、死んでまとめられる話というのが余り好きではないんです。たとえば、きちんと終わらせるための決断の死であっても、死ぬことに

よって、そこまでの背負ってきたものがかすんでしまう気がするんですよ。(あ、でもサトクリフの『王のしるし』はもうそれ自体がテーマなので大好きです。何時間でも愛を語れます。好きすぎて書いてこなかったけど次回はそれにしようかな。) まあ『獣の奏者』について言うなら、1、2巻で少女の成長物語だったのが、3巻でいきなり母親目線になって、でも1巻の最初から、生まれだとか母親だとか国だとか、人工で育成している王獣だとか問題は沢山あって、それを全部謎解きのように綺麗に終着させて、あの圧倒的なクライマックスのシーン、ていうのはね、もう映像として完璧で、一種の芸術作品のように捉えています。ドカーンで感じの。あと最期も出来る限り家族が傍にいられたし、後代に自分の学んだことを伝えることもできたし、死んでしまうという選択肢の中では最大限良い終わり方だったと思います。なので、何度も言いますが好みということ。

でも気になるのは、今、1巻から青い鳥文庫になっているわけですが、3、4巻も子ども向け文庫にしてしまうの?ということ。いや、小学生で愛読書が筒井康孝と向田邦子と井上ひさしだった私が言うことではないかもしれないですが、青い鳥文庫を読む世代が母親目線の話に感情移入できるのか、という余計な心配を、

ね。まあ正統派に主人公に感情移入しなくたって面白いと思える本の読み方はいくらだってあるのは知っていますが、子ども向きの形に提示してしまうのは、少し気になってしまうのです。ああ嫌な目線で物を見るようになってしまった。と、反省しつつ、今回はこのへんで終わりたいと思います。散々書きましたが、美味しいものの描写はピカいちですし、動物好きな方は絶対楽しめると思いますよー。きちんと読書をしたい方、是非どうぞ。

(高橋 舞)

## つとがわ 編集後記

“アイヌ民族・兵庫交流会 / 要求は、先住民  
族アイヌの権利の回復です”で、北海道アイヌ  
協会紋別支部長畠山敏さん、同支部後援会代表  
鷲頭幹夫さんを西宮に招きました。畠山さんは  
アイヌ民族です。鷲頭さんは、アイヌ民族であ  
る畠山さんの信頼する数少ない“和人”(日本  
民族)の一人です。たとえば、西宮で普通に生  
活する人たちは、アイヌ民族のことは気にして  
いません。西宮の交流会で畠山さんのような  
“アイヌ民族”と出会っても、特別の共感も特  
別の違和感も持たないはずです。存在すること  
も存在しないことも西宮で生活する普通の人の  
話にもならないのです。一方、畠山さんにとっ  
て、和人(日本民族)は、現在まで、自分たち  
アイヌ民族を抹殺し続ける存在として、今も立  
ちはだかっています。畠山さんが、招かれて和  
人(日本民族)の地である西宮に来て、西宮の  
和人(日本民族)の前で語るの、敵陣で敵の  
前で語ることを意味します。かつて、和人(日  
本民族)が、アイヌにしてきたことから言え  
ば、アイヌ民族・兵庫交流会で、アイヌ民族で  
ある畠山さんの信頼する鷲頭さんの“立ち会  
い”は不可欠だったのです。(アイヌ民族・兵  
庫交流会「要求は、先住民アイヌの権利の回  
復です」報告書より)

( K )

少しずつ暖かくなってきました。春を知らせ  
るオオイヌノグリも咲きはじめ、その小さな  
花を開かせています。先日、子ども達とテント  
ウムシを見つけ、絵本でも楽しみました。寒い  
冬の間、テントウムシは落ち葉や木の皮の中で  
寄り集まって春が来るのを待っているそうです。  
その絵をみて『おしくらまんじゅうしてるんや  
』とTくん。ただ寒さをしのいでジッとして  
いるんじゃないかと、そう思ってみるとテントウ  
ムシ達の冬越しも楽しそうです。

いろいろな場所で春を待っているんですね。  
春よこい、早くこい

( I )

「羊毛とおはな」のライブへ行ってきました。  
社会人になってから、いろいろな人のライブへ行く  
機会が増えました。学生時代は自分がしていたこ  
ともあり(レベルが全然違いますが)ライブの雰  
囲気に毎回ワクワクします 好きな音楽を聴きな  
がらボーッといろいろなことを考える時間は至福の

時。とっても贅沢な時間です。今年、あと2つラ  
イブに行く予定がありますが今からとても楽しみ  
です

( Y )

先日友人と趣味について話す機会がありまし  
た。映画に音楽、買い物、切り紙にピアノ、美術  
館にでかけたり~。以前「趣味は？」と聞かれて  
困っていた自分がいました。公的に仲間入りして  
新しい出会いがあり様々時間を過ごす中で以前よ  
り深まったものもあれば、新たに増えたものも。  
私の中で特に大きかったものはやっぱり音楽 子  
ども達との歌、太鼓鼓との出会い、色んなアー  
ティストのライブにでかけたり~ と狭かった私  
の音楽の世界を広げてくれたここでの時間に感謝  
します。まだまだやりたいことが!好きなことに  
没頭する自分の時間をもっと豊かにそして大切に  
していきたいと思います。

( N )

篠山・後川に出発する朝、1台は子どものバス、  
もう1台は同行希望の保護者。そちらにあいさつ  
に行って「このバスにご一緒に名(迷)ガイド  
ぶりをご披露したいのですが~」(ワァーッ!!)  
「やはり子どもを引率していきますので~」  
(エーッ!!)そんなリアクションに元気をも  
らって出発。バスの中で子どもたちへの思いつ  
き絵本クイズ。頭の体操に疲れて座ったら「じゅ  
んこーもっとやろう!」。よし!そんな言葉ほ  
ど人を元気にさせるものはない。再びがんばる。  
羽束川への放流に立ち会ったオオサンショウウ  
オ。それをめぐる自然界の話は面白かった。

大学入試本番。「順子先生からの“桜咲け!”と  
書いて下さった年賀八ガキがお年玉プレゼントに  
あたって、それをお守りに出発して行きました」  
新潟からの浪人受験生の母からの報告。人は言葉  
で生かされている。

( J )